

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題			
		○成果 ▲課題	○成果 ▲課題
		第4学年	第5学年
		第4学年	第6学年
国語	○全ての観点・領域で定着が見られた。特に基礎力が身に付いている。 ▲説明的文章を読み取る力に課題が見られる。	○記述式の問題に成果が見られた。 ▲書くこと・読むことに課題が見られた。語句の意味を正しく捕えたり文中で使ったりできるようにする。	○全体的に言葉・情報・言語文化において一定の定着が見られた。 ▲書くことに関しては多くの児童に課題が見られた。特に記述式に課題が大きい。
社会	○全ての観点・領域で定着が見られた。 ▲情報の読み取りや思考・判断・表現力を伸ばし、応用力を高める。	○体験的に学習した内容に関しては定着が見られた。 ▲基礎的な知識・技能に課題が見られる。	○知識・技能に一定の成果が見られ、基礎力が身に付いている。 ▲思考・判断・表現を伸ばし、応用力を高める。特に記述式に課題が大きい。
算数	○全体的に学習の定着が見られた。 ▲応用問題に課題が見られる。数学的に考える力伸ばし、応用力を身に付けさせる。	○全ての観点・領域で定着が見られた。 ▲数学的に考える力をさらに伸ばし、応用力を身に付けさせる。	○「数と計算」の領域に定着が見られた。 ▲思考・判断・表現力を伸ばし、基礎力の定着を図る。
理科	○基礎力は、身に付いている。 ▲思考・判断・表現力を伸ばし、応用力を高める。	○基礎力は、身に付いている。 ▲思考・判断・表現力を伸ばし、応用力を高める。	○知識・理解の定着が見られた。 ▲思考・判断・表現を伸ばし、応用力の定着を図る。
授業改善の方針			
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の意味や使い方を調べて短作文等に表現する活動に継続的に取り組み、語句を正しく活用する能力を高める。</li> <li>・文章を書く活動からどのようなことを学び、どのようなことが分かったのかを児童が自覚することができるような授業展開を心掛けることで、児童の「書く力」の向上を図る。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや図表などから様々な事象を読み取る機会を増やし情報を適切に読み取り活用する力やまとめて記述する力を育てる。</li> <li>・区・県・国の位置や地形に着目してその様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現する活動を充実させる。</li> </ul>		
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のめあてを明確にし、既習事項を使って粘り強く問題解決をしていく姿勢を育てる。</li> <li>・つまづきの原因を知り、指導法や指導形態の工夫をしながら個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>・問題文から必要な事柄を取り出したり既習事項を見出して問題に当てはめたりしながら解けるような学習を意図的に取り入れ、応用力を身に付ける。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察の目的を明確にして、児童が課題意識をもって学習に取り組むようにする。結果をもとに考察し、自分なりに実験や観察のまとめを表現する授業を展開することで、思考力・判断力等の向上を図る。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の表現しようとする意欲や表現したい意図を大切に指導を重視する。また、自分たちで考えて課題を進めていくようなグループ活動やトリオ学習等を意図的に取り入れる。</li> <li>・児童の関心意欲をより高められるよう、ICT機器をさらに利活用していく。</li> </ul>		
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中での体験活動が不足していることから、様々な材料や道具に親しみ、試行錯誤しながら、五感を通して感じる体験を重視する。自己決定しながら表現活動することで、新しい価値(新しい自分)を創造できるように工夫する。</li> <li>・意見交流や対話活動を取り入れ、お互いの個性を認め合う、褒め合うなど自己肯定感を高められるように工夫する。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年6年ともに、座学より製作や実習の時間を充実させ、技能に自信のない児童への丁寧な個別指導を図る。</li> <li>・様々な学習場面で、児童同士が協力し教え合うことを促し、思考力・表現力を伸ばしながら、知識や技能を身に付けられるようにしていく。</li> </ul>		
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がめあてや見通しをもって課題を見だして学習活動に臨めるよう、指導内容を明確にする。その上で、学年の実態に合わせた場や用具を用意し、ICTも活用しながら学習活動の展開を工夫する。</li> <li>・指導内容の重点化を図り、活動環境や運動の多様な価値に気付かせる工夫を行い、児童も教員もアップデートする。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年もALTの先生に対して抵抗感はなく学習できている。カタカナ英語と英語の発音で混乱している児童が多いように感じるので、正しい発音について学習していく必要がある。</li> <li>・高学年は、4線を意識し、正しく書くことができるようにする。絵や文字を見て何を表しているのか英語で言えるように、音声と文字を結び付けられるような指導を意識して行っていく。</li> </ul>		